

# 理学療法かわら版

一般社団法人  
山形県理学療法士会

## 目次

学術局の活動紹介 ……………	1	活動報告 ……………	6
第30回山形県理学療法学会を振り返って ……	2	倫理委員会より ……………	7
専門領域推進部の紹介 ……………	3~5	事務局だより 編集後記 ……………	8



## 学術局の活動

学術局長 大原 隆 洋 (北村山公立病院)

学術局長(2期目)を務めさせて頂いている北村山公立病院の大原隆洋と申します。初めに、未だ感染状況が日々変化する厳しい社会情勢の中、延期もありましたが第29回をはじめのオンライン形式で、そして第30回は念願の対面形式で学術大会を無事に開催できました。これも担当して頂いた最北・村山支部会員の大会長ならびに準備委員会の皆様のご尽力の賜物と存じます。この場を借りて改めて御礼申し上げます。また、ご理解とご協力を頂いた会員の皆様にも感謝申し上げます。

さて、今回は皆様に学術局の活動についてご紹介させて頂きます。学術局には学術大会部、学術誌部(学術誌の発刊)そして専門領域推進部(研修会・勉強会の企画・運営)の3つの部があります。いずれの部も理学療法士に必要な臨床・研究・教育それぞれに関係している部のため、会員の皆様には馴染み深い部局かと思えます。今回はその中でも私が主に担当している学術大会部についてご紹介させて頂きます。

学術大会は各支部持ち回りとなっています。そのため、これまで多くの会員の方に準備委員会として多大なるご協力を頂き無事開催出来ております。一度でも学術大会に携わったことのある方はご理解いただけると思いますが、学術大会の開催までには長い時間と膨大な労力が必要です。学術大会の企画・準備は開催の約2年前から始まります。具体的には、企画案の作成、会場手配、広報・公文書作成、講師や各団体・市町村などへの渉外活動、そして開催当日の運営・進行など多岐にわたります。簡単に申し上げると、これら学術大会全体をサポートするのが学術大会部の役割となっています。他にも、一般演題の審査や前年度学術大会

における新人賞の選定などを行っております。

また、学術大会運営マニュアルの改訂という大きな課題にも取り組んでいます。皆様も感じているところでしょうが、新型コロナウイルス感染拡大により時代は大きな転換期を迎えました。当たり前だった対面形式での学術大会などのほとんどがオンライン形式となりました。現地に行かずとも受講・参加できることは大きなメリットとなりました。しかし、対面での開催と比べると人とのつながりが希薄となり、どこか物足りなさを感じる方も多かったのではないのでしょうか。また、今年度より新生涯学習制度が施行され学術大会への考え方も大きく変化していくことが予測されます。これら、日々変化する社会情勢に柔軟に対応するためにはこれまでの学術大会の在り方を改めて見直す必要があります。学術大会運営マニュアルの改訂が必須となってきます。より良い学術大会のためには、準備委員会をはじめ、会員の皆様に多くのご意見を頂く必要があります。学術大会への参加はもちろんのこと、是非とも学術大会の準備・運営にも積極的に携わって頂ければ幸いです。そして、学術大会に関するご意見やご要望がありましたら、遠慮なく私や近隣の学術大会部員、または準備委員会にお伝え下さい。会員皆様で協力し「参加して良かった」と思える学術大会にしていきたいでしょう。

最後に、学術局の活動はもちろんのこと当会活動は会員皆様のご協力があって成り立っております。これからもご理解とご協力の程よろしく願いいたします。会員皆様で山形県理学療法士会を盛り上げていきましょう。



# 第30回山形県理学療法学会を振り返って

大会長 福田 守 (山形医療技術専門学校)

6月18日・19日に山形テルサにて第30回山形県理学療法学会が無事に開催され、306名にご参加いただきました。顔の見える久しぶりの対面形式で行え、講師の先生方からも、聴講者の反応を見ながら講ずることができ、非常に講演しやすかったというお言葉をいただきました。一般演題も数多くご登録いただき、感染対策としてポスター発表は時間を分けて3部制にし、シンポジウムではZoomを使用してのオンラインによる論議など新型コロナウイルスへの配慮をしつつではありましたが、スムーズに会を進めることができましたと思慮します。

久しぶりに再会できた会員も多く、準備委員会一同満足のいく学会大会となりました。3年前に大会長に任命いただき、企画会議や運営会議等にて本学会大会の準備を進めるにあたり悪戦苦闘いたしました。オンライン形式にするのか、対面形式の方が進めやすいか、さらにはハイブリッド形式が無難かなど議論を何度も重ね、思い通りに進まないことも多々ありましたが、ご参加いただいた皆様の表情や満足したという感想をいただき学会大会を終えてみると全力で取り組んで良かったと思えました。

夜遅くまで会議に出席し、何か月も前から運営に関わっていただいた村山支部の準備委員会の皆様、学会大会部の皆様に感謝申し上げます。特に準備委員長の本山先生、事務局の山口先生には病院業務もある中、ご尽力いただき誠にありがとうございました。また、岩井先生をはじめとする当会理事にもご協力いただき本学会大会を成功裏に終えることが出来たことに感謝いたします。さらに各講師の先生方や発表者の方々には本学会大会に快くご協力いただき、充実したプログラムを進めることができました。併せて感謝申し上げます。

学会大会は担当支部の力だけで成功するのではないと思います。山形県理学療法士会員全員が協力するという気持ちが大切なのではないでしょうか。会員一同団結して次年度の鶴岡での学会大会も成功するよう盛り上げていきましょう。皆様、本当にありがとうございました。

思いやりリハビリ・まごころケア

**(有) 福祉用品やまがた**

介護用品ショールーム

〒998-0842 山形県酒田市亀ヶ崎4-2-40  
電話 (0234) **26-1725**  
FAX (0234) **26-6780**

 義肢・装具・車いす  
他整形医療器具製造・販売

**(有) エムサポート**

〒990-2212 山形市上柳110  
TEL(023)687-2800 FAX(023)687-2812  
取引銀行 山形銀行宮町支店(普通)0241881

 医療機器・福祉用具販売レンタル

TOTAL MEDICAL COMMUNICATION

**株式会社 トーク**

日器連通正事業所 第9406017号 〒997-0806  
福祉用具貸与事業所 0670700434 山形県鶴岡市遠賀原字福荷41-2  
E-mail:somu@took.co.jp TEL (0235) 22-1009 FAX (0235) 25-8139

医学書のことならお任せください

日本医書出版協会認定医学書専門店  
医学書、看護学書、医書一般

 **株式会社 高陽堂書店**

山形市大野目3-1-17 TEL 023(631)6001 FAX 023(632)1168  
http://www.koyodo.com/ email info@koyodo.com

**安心と信頼**

- ・前腕義手・股義足・下腿義足・骨格構造義肢・  
(大型短前腕を含む)
- ・腰・胸椎装具・靴型短下肢装具・歩行補助つえ・車イス・  
(コルセット)

山形県指定一級義肢装具士 **安達 武雄**  
**(有)安達ブレイス製作所** 山形市江俣3丁目15-1  
☎(023) 681-0456

Your Healthy and Active Life With  
YAMAGATA PROSTHESES INSTITUTE  
あなたの健康で快適な人生のために、山形義肢研究所ができること

**有限会社 山形義肢研究所**

ACCESS 山形市飯田五丁目5番39号  
TEL 023-632-5214 FAX 023-632-5215



## 専門領域推進部の紹介

学術局 教育局担当理事 山本 洋介 (山形徳洲会病院)  
学術局 教育局担当理事 阿部 宣行 (公立置賜総合病院)

専門領域推進部は学術局と教育局の両方に属するという特殊性を持ち、2015年に新たに発足しました。当会最大の部で、9領域を39名(理事2名・部長3名・部員34名)で運営しております。また各領域の活発な活動を推進するために、各領域への会員登録のシステムを設けております。

昨年度はコロナ禍の影響を受けながらも、講習会1本・勉強会6本の計7本をオンライン開催し、5領域(予防・スポーツ・小児・内部障がい・神経)が担当しました。オンラインでの講習会開催は初めての試みであったため、「オンライン研修会 受講規約」を作成しました。

今年度からは新生涯学習制度(以下、新制度)の開始に伴い、研修会等の開催数を大幅に増やしました。計13本(研修会3本、勉強会7本、症例検討会3本)を予定しており、7月から月1~2本の頻度で開催しております。症例検討会は初の試みで、内部障がい領域限定での開催となります。今年度は9領域全てで年間予定を組み、既に計6本(スポーツ・予防・内部障がい・生活支援・難病領域担当)がオンライン開催されました(11月末時点)。参加者は50名前後で、若手の方の参加が多く、新制度の関心の高さが伺えます。当部では履修申請の混乱を回避するため、早期より関係部局と連携しながら情報の収集と共有に努め、現在まで予定通りの運営ができております。

新制度の狙いは、「継続的学習で理学療法士の質を担保すること」にあります。若手のみならず、中堅・熟練の方にも参加して頂けるような学習の場を提供し、ジェネラリスト(登録理学療法士)とスペシャリスト(認定・専門理学療法士)双方の育成に寄与できるよう、尽力している次第です。会員の皆様の学習ツールの一つとして是非ご活用頂き、意思決定と行動変容の一助となれば幸いです。

## 各理学療法専門領域の紹介

①専門領域の対象となる疾患などの情報  
③今後の事業予定・報告

②活動方針と活動紹介  
④新たに登録を検討している会員の方へ

神経理学療法領域 小 関 渉 (公立置賜総合病院)

- ①神経領域(脳卒中・神経疾患・脊髄損傷など)となります。
- ②年に最低一度の神経領域の勉強会及び研修会を実施しております。
- ③年内に脳卒中患者に対する勉強会を開催予定。1月29日に研修会を開催します。
- ④神経領域の患者に対してどのように評価し介入するか悩むことは多々あるかと思います。様々な考え方や治療法がありますが、どんな考え方にも一長一短在るものと思います。しかし、一番に困っている患者様に対して、最大限の治療を如何に行なうか、それは正しいのか改めるべきか少しでも解決のきっかけになり、様々な考え方に触れる機会をもてるような勉強会を開いていければと思っております。

- ①年齢問わず、運動器疾患全般となります。
- ②今年度に関しては勉強会を12月に開催予定です。研修会は未定です。
- ③12月15日に勉強会を開催しました。
- ④皆さんが一度は経験したことのある疾患でも、様々な角度からの情報が得られるようにと考えております。  
病院や施設等の形態に関わらず、会員の皆様とともに情報の相互提供を目指していければと思います。

---

生活支援理学療法領域 関場 大樹 (篠田好生会 篠田総合病院)

- ①疾患に括りはなく、患者様自身を捉えて、その方の生活を支援していくにはどうすればいいのかを考えていきたいと思います。急性期から生活期まで時期に応じた生活支援、そして時期を越えて繋げていける生活支援を考えていきます。
- ②アドヒアランス概念に基づいた理学療法をテーマとし生活支援領域勉強会を開催しました。
- ③9月15日に勉強会を開催しました。
- ④地域理学療法では生活期だけでなく、急性期、回復期から、患者様の生活を支援していくことも重要となります。時期毎に課題も異なるかもしれませんが、理学療法士だからできる、患者様自身を捉え、主体的に自立した生活を送っていただけるような支援を考えていきます。また、医療領域、介護領域はそれぞれで研修会、勉強会が行われている印象を受けます。医療領域から介護領域へシームレスな連携を図るためにも、顔の見える関係作りができる場としての役割も目指していきます。

---

スポーツ理学療法領域 村田 宙 (山形大学医学部附属病院)

- ①スポーツ障害を主とした整形外科疾患となります。
- ②活動方針は主に県内のスポーツ領域に実績のある会員で勉強会の運営を主としています。今後外部講師をお呼びし研修会の運営を考えております。ご興味のある会員の方はぜひご協力を頂ければと存じます。
- ③勉強会・研修会を開催予定です。
- ④スポーツはジュニアからシニア、ビギナー、アマ、プロまで幅広く、性別や障がいの有無も関係なく楽しむこと、または仕事としての側面を持っています。スポーツ領域に関わる方は少ないのが現状ですが、その中でも理学療法士が行うトレーニングやコンディショニングの方法論はスポーツ領域から他の領域へ応用が可能で非常に興味深い分野であると感じております。ぜひ一緒に学び、いろいろな先生との人脈を増やしてみませんか？

---

難病理学療法領域 落合悦子 (山形ロイヤル病院)

- ①パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、脊髄小脳変性症 (SCD)、多系統萎縮症 (MSA)、脊髄性筋萎縮症 (SMA)、ベーチェット病、多発性硬化症 (MS) などです。
- ②難病患者様との理学療法を考えることです。
- ③10月20日に勉強会を開催しました。
- ④難病の患者様に関わる数は多くないと思いますが、必ず関わるがあります。そんな時、ここでの情報やセラピスト同士のつながりがきっと役に立つと思います。



内部障がい理学療法領域 **本 間 豪** (日本海総合病院)

- ①理学療法を提供する上で必要な全身状態を把握し、医師の診療に併せた適切な介入ができるようになるよう酸素供給系や関係する臓器、その治療について学べればと思っています。
- ②これまでは全身状態を支える臓器や臓器系とその連携について勉強会を中心に企画してきました。本年度は症例検討会を中心に日頃判断になやむ事柄や勉強になったこと等を県士会内で共有していければと思います。
- ③8月18日、11月17日に症例検討会を開催しました。令和5年2月16日に第3回症例検討会を開催します。
- ④職場環境等によっては経験できない要素を補うことができればと思っています。

---

小児理学療法領域 **飛 田 信 子** (山形県立こども医療療育センター)

- ①対象疾患は脳性麻痺・脳炎後遺症・てんかんなどの脳原性疾患、二分脊椎、筋ジストロフィー、ダウン症候群、染色体異常、運動発達遅滞などです。対象年齢は0歳～成人まで含まれます。
- ②勉強会は年1回、症例報告や情報交換座談会を実施しております。研修会は平成28年11月20日に1回開催、それ以降は開催できておりません。
- ③令和5年1月19日に勉強会を開催しました。
- ④小児の理学療法は少し特殊な分野と思われる方も多いかもしれません。どうやって接すればいいのか分からない、何をしたらいいのか分からない、だから小児は苦手と感じる人も多いと思います。お互いに情報交換をしながら小児理学療法についての知識を深めていけたらと思います。小児領域への参加をお待ちしております。

---

ウィメンズ理学療法領域 **庄 司 優喜子** (Total Care Salon COZY)

- ①生理・生理痛、女性アスリート、性機能、産前産後、尿失禁・便失禁、骨盤臓器脱、更年期など女性一生の心身に関わることを幅広く対象としております。
- ②これまで「産前産後の関わり」、「ウィメンズ理学療法分野の理学療法～総論から臨床～」、「排尿ケアに関する臨床の実際」の研修会を開催してきました。今後も領域に関する研修会を企画していきます。
- ③12月11日に研修会を開催しました。
- ④ウィメンズヘルス理学療法領域は女性の生涯にわたる心身の変化について学ぶものです。脳外科病院だから、整形外科クリニックだから、男性だから、自分には関係ない、そんな分野では決してありません。脳外科疾患で失禁がADLに影響している場合や、整形外科での腰痛が生理周期や骨盤底筋の機能不全に起因している場合もあります。患者さんのみならず、自分やパートナーの身体を知ることは大切なことです。ウィメンズヘルスについて知ることで、より捉え方や考え方の幅が広がっていきますので、ぜひ、一緒に学んでいきましょう。

---

予防理学療法領域 **栗 田 宜 享** (日本海総合病院)

- ①予防理学療法の目的は、「参加」が不能になる状態を「予防」することです。全ての専門領域、年代において「○○予防」というテーマは存在します。予防領域ではそれらを広く対象とします。近年では、高齢化が大きな課題に挙げられることが多いため、介護や地域における予防のテーマを扱うことが多いです。
- ②「実践」と「実用」が予防領域の活動方針です。予防に関する知見を学ぶだけでなく、皆さんの臨床で、山形の地で、実際に行うにはどうすれば良いかを具体的に話し合うことをモットーに、勉強会や外部講師を招いての講習会を企画しています。
- ③8月17日に勉強会を開催しました。
- ④予防を学ぶことは、対象事象の今までを想像する助け、私達がこれから何をすべきかを知る助けになると感じます。多領域の力を集めながら、具体的な実践・実用方法を探る。そんな魅力を皆さんと共有できれば嬉しいです。

## 令和4年度在宅リハビリテーション研修会 「山形県における小児在宅リハビリテーション」

職能局 訪問リハビリテーション推進委員長

阿 部 慎太郎 (訪問看護ステーション ハローナース)

令和4年8月21日(日)にオンライン形式で、PT・OT・ST合計で31名の参加をいただき、小児・発達障害の領域で活躍されておられる講師をお招きし、令和4年度在宅リハビリテーション研修会を開催しました。近年、在宅におけるリハビリテーション専門職の小児に対する関わり方は、ますます拡がりを見せているように感じられます。

山形県立こども医療療育センターの飛田信子氏からは、重症心身障害児に対する介入とリスク管理についてご講義いただきました。心身に障がいを持つ子どもに対しては、社会的に自立した生活を送れるように「医療」「看護」「福祉」「教育」などの多職種が協働し、成長発達を支える「療育」という考え方が大切であることを学びました。また、人工呼吸器や喀痰・吸引、経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な障がい児に対しては、生命維持機能としての呼吸機能の維持・向上や合併症の予防は最重要であり、幼少期から多様な姿勢がとれることは、その後の成長や生命予後にも影響するということがとても印象に残っております。座位保持装置や腹臥位保持装置、反応を引き出すおもちゃなども数多く紹介され、理学療法士としてどのような関わり方ができるのか、改めて考えさせられる機会となりました。

子ども発達支援ルームおれんじ学園かみのやまの加勢泰庸氏からは、障がいを抱えた子どもに対する地域支援についてご講義いただきました。障がい児のサービス利用数は年々全国的に高い伸び率となっており、支援体制を整えていく必要性が改めて伺えます。それに伴い、地域にはどのような事業所があるのか、どのような流れで相談やサービスを利用に至るのか、具体例を挙げながら紹介いただき、児童発達支援事業所や放課後等デイサービスを利用する際の仕組みについても理解を深めることができました。これから在宅リハビリテーションとの兼ね合いを考えていく際には、ライフステージに応じて保育園や幼稚園・学校等とどのように連携していくかがさらに課題となりそうです。

グループワークにおいては「小児リハビリテーションとは？専門職の役割について」「在宅においてPT・OT・STの専門性を発揮するために」の2つのテーマで演習を行いました。小児領域に関わったことのない方から、NICUや小児発達支援に関わる施設や事業所で専門的に関わっている方まで、活発な意見交換や情報交換が行われました。特に、在宅で支援するうえでの不安や悩みを抱えながらも、ご家族との信頼関係の構築やそれぞれの施設との連携方法を工夫している様子が共有でき、縦にも横にも繋がりを拡げることができたのではないのでしょうか。


全体を通して振り返ると、医学の進歩や整備の充実などに伴いニーズが増加する中で、在宅リハビリテーションの専門職としての役割を自覚し、適切な関わり方を模索しながら実践していくことが重要と感じます。皆さんも在宅での支援について一緒に考えてみませんか？

あなたの笑顔が見たいから  
**株式会社 蔵王サプライズ**

●リネンサプライズ・ホスピタルリネン事業部 ●ホームヘルスケア事業部 ●リースキン事業部

ホームヘルスケア事業部 山形市銅町二丁目21番4号 TEL (023) 674-9600  
支店・営業所 仙台支店／新庄営業所／庄内営業所

生命科学・医療福祉分野を総合的にサポートする

 **株式会社 シバダイテック**

■山形支店 〒990-2323 山形県山形市桜田東二丁目1番21号  
TEL:023-642-8153 / FAX:023-623-5853  
本社(仙台)・荘内営業所・鶴岡営業所・郡山営業所・ロジスティックセンター・メンテナンスセンター

最近ハラスメントが問題になっていきますので注意しましょう

倫理委員会より

あなたは大丈夫?

第1弾

# それハラスメント かもしれません!

## 1 パワーハラスメント

- ・感情的になってしまう態度、暴言



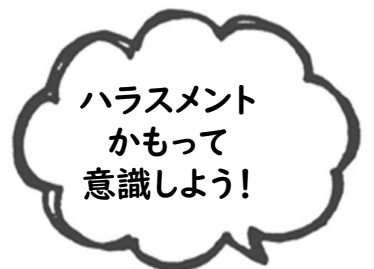
## 2 モラルハラスメント

- ・倫理、道徳に反する嫌がらせ
- ・価値観の押し付け、陰口・嫌味・侮辱
- ・無視、仕事を与えないなども
- ・セクハラも含まれる



## 3 何でもハラスメント

- ・ハラハラ: ハラスメントハラスメント  
→ 過剰な主張



参照: 日本理学療法士協会ホームページ

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/pt/ethics/>

## 事務局だより

### 【会員異動届の手続きについてのお願い】

皆さまに刊行物が確実に送付できますよう会員異動届の手続きをお願いいたします。

施設に勤務されている会員で自宅会員として登録している場合は、速やかに勤務先を登録し、勤務先を異動した場合は異動申請を行なってください。会員の皆様には、改めてご自身の会員情報登録状況のご確認をお願いいたします。

なお、登録状況の確認は日本理学療法士協会ホームページのマイページの「登録内容の変更・確認」より行えます。勤務先の異動や改姓などの申請は、「登録内容の変更・確認」より手続きを行なってください。皆様に情報が速やかに伝達できますよう何卒ご協力をお願いいたします。

## 編集後記

かわら版29号を発刊するにあたり、学術局のご紹介と6月18日、19日に開催された第30回山形県理学療法士協会学術大会のご報告を寄稿いただきました。準備委員会の方々をはじめとし学術大会の運営に携わった皆様のご尽力により、この度の学術大会も大盛況となりました。私も参加者の1人として、意見交換や交流、会場の空気感を通じて対面式の学術大会の醍醐味を感じることができました。

また、新生涯学習制度の開始に伴い、専門領域活動について特集させていただきました。専門領域推進部の紹介や9つの専門領域の今後の事業予定について情報提供をいただきました。この特集が、専門領域活動の一層の活性化や各専門領域に興味をお持ちの皆様の新たな一歩に繋がれば幸いです。

山形県立河北病院 石本 亮

## LCS オーダーメイドの福祉用具 株式会社 ライフケアサポート

山形県東根市温泉町1-13-10  
TEL0237(43)6833 FAX0237(43)6832

医療の未来を見つめる総合商社

## 岡崎医療株式会社

■本社 山形市あこや町三丁目4番3号  
■山形営業所 〒990-0025 ☎023-623-0546  
■鶴岡営業所 鶴岡市大字安丹字村上4番10号  
〒997-0057 ☎0235-22-0106

福祉用具開発・レンタル販売 <http://www.tamatsu.jp>

## 株式会社 タマツ

本社 山形県鶴岡市美咲町32-7(〒997-0857)  
TEL 0235-23-6333/FAX 0235-25-3889

## ◆山形県厚生省労働省指定◆ (有) 渡部義肢

◆営業品目◆  
義足・義手、コルセット、車椅子、ステッキ、下肢装具、上肢装具、骨格義足(モジュラー)  
〒997-0861 山形県鶴岡市桜新町8番地52号  
TEL(0235)25-9366 FAX(0235)25-9364

## オーリンク株式会社

山形市北町三丁目8番20号  
電話 (023) 681-3633 (代)

福祉用具の製作・販売・レンタル

## 風の郷工房(有)

東置賜郡高畠町一本柳2535-1  
TEL 0238-52-1446 FAX 0238-52-1411  
URL : <http://www.kazenosato.co.jp/>  
座位保持装置・車椅子  
電動車椅子・歩行器など

## Okaze OKAZE CORPORATION

株式会社大風印刷 〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘1-2-6 TEL.023-689-1111  
●天童営業所・☎023-654-5715 ●東根営業所・☎0237-53-0117 ●仙台営業所・☎022-399-7861  
●東京営業所・☎03-5829-6650 ●ガッタハウス・☎023-631-5579

■発行/一般社団法人 山形県理学療法士会

■発行者/岩井 章洋

■編集者/丹野 則子 柴田 拓哉

■広報部/E-mail : [ptkouhoubu@yahoo.co.jp](mailto:ptkouhoubu@yahoo.co.jp)